

3・1独立運動から95年 侵略・植民地支配の歴史の歪曲を 許してはならない



今日 3月1日は、天皇制日本の植民地支配下にあった朝鮮半島の民衆が、独立を求めて起ちあがった「3・1独立運動」が始まった日です。今から95年前の1919年3月1日、ソウルのパゴダ公園（現タブコル公園）に集結した何千人という朝鮮の民衆は、独立宣言を読み上げ、「大韓独立万歳！」のスローガンを叫びながら、市街を非暴力で平和的に示威行進しました。

日本の朝鮮に対する侵略・植民地支配がどれほど苛酷なものであったか、それに対して朝鮮の民衆がどれほど多くの犠牲を払いながら独立を求めて闘ってきたのか。3・1独立運動はそれをはっきりと示しています。

今、そうした日本の「負の歴史」を歪めて美化する「歴史修正主義」が徐々に広がっています。戦争にもつながるこの動きを決して許してはいけません。

< ☆ 3・1 独立運動とは >

ソウルで始まった3・1独立運動は、その後、朝鮮半島全土に拡大し、1年間に200万人とも言われる朝鮮民衆が参加したとされています。ところが、これに非常な危機感を抱いた日本帝国主義—朝鮮総督府は、軍隊や警察などによって非暴力の民衆に一方的な弾圧を加えました。その被害はわずか1年間で死者7,645名、負傷者45,552名、被逮捕者49,811名にも上っています。日本軍による住民大量虐殺が複数行われたという記録も残っています。

3・1運動は日本による「韓国併合」が完全な失敗であったことを明らかにしました。力づくで押さえ込もうとするだけでは朝鮮民衆の独立運動を抑えられないことを知った総督府は、これ以後、朝鮮人にも「言論・集会の自由」などある程度認める「文化政治」—「同化政策」を進めることとなります。それはその後、朝鮮民衆から朝鮮の言葉を奪い、文化を奪い、名前までも奪って(ウラへ)

アジェンダ・プロジェクト京都

〒601-8022
京都市南区東九条北松ノ木町 37-7
Tel&Fax 075-822-5035
URL <http://www3.to/agenda/>

いく「民族抹殺政策」＝皇民化政策へとつながっていきました。

日本の植民地支配に反対して起ち上がった朝鮮民衆の3・1独立運動は、その後の中国の5・4運動やインドの非暴力不服従運動などの反帝国主義闘争にも影響を与えました。しかし、そうしたアジアの民衆の闘いに、日本はさらなる弾圧を加えていったのです。1923年9月の関東大震災下での6000名にもものぼるとされる朝鮮人大虐殺も、そういう流れの中にありました。独立を求めて抵抗する朝鮮民衆を大虐殺していった日本は、その後さらに中国・東南アジアへと侵略を拡大させ、2000万人ものアジア民衆を犠牲にしたのです。

< ☆歴史の歪曲を許さず戦後補償の即時実現を！ >

昨年末の安倍首相の靖国神社参拝以降、安倍本人やその取り巻きの人々によって、近代日本の侵略・植民地支配の歴史を歪め、美化するような発言が一段と増えています。彼らは「靖国参拝について誤解を解きたい」などとくり返していますが、靖国神社は昔も今も戦死者を弔うところではなく、「神」として祀り「顕彰する(ほめたたえる)」ところです。アジア太平洋戦争を「大東亜戦争」という「西欧列強からのアジアの解放を求めた正義の戦争」と位置づけ正当化している、いわば侵略戦争推進機関に他なりません。そこに参拝する安倍首相はじめ彼らにとっては、日本国憲法はもとより戦後の国際秩序すら「戦勝国による敗戦国への押し付け」にすぎないものであり、「日本だけが謝罪や補償を求められる筋合いはない」ということになります。国内外から批判が来るのを承知のうえで、発言しては撤回することをくりかえす彼らの「確信犯」的な言動の数々の裏には、こうした「押し付け」を覆し、侵略国家の歴史をなかつたものにしようとする危険な野心が見え隠れしています。それは現在進められている日本を「戦争できる国」にする動きとも、強く連動しています。

私たちは、近代日本が欧米列強と競うようにしてアジアに軍事的に侵略し、現地の人々が決して望まなかった植民地支配を行い、おびただしい犠牲を強いたのだという事実、正面から向き合わなければなりません。アジアの被害者が生きている最後の機会として今をとらえ、韓国や中国で高まっている戦後補償を求める声に真摯に応えるべきです。これは決して過ぎ去った過去の問題ではありません。まさに現在の問題であり、今後東アジアに真に平和で友好的な関係を創っていく前提ではないでしょうか。 (2014年3月1日)